

今後の学会活動の探究 —30年の学会の歩みをふまえて—

委員長：黒田 久美子（将来構想検討委員会）

1. 企画趣旨

千葉看護学会は1994年に設立され、「実践と研究の往還」を中核理念として発展してきた。2024年度からは法人格を有する学術団体として、さらに看護学の基盤をより豊かにかつ強固にする学会活動を推進し、看護学のあらゆる対象の利益と看護学の新たな可能性・発展性の追究を目指すことをビジョンにあげている。将来構想検討委員会は、1期のみのアドホックな委員会として、本学会の将来構想を検討する委員会として設けられた。

第30回学術集会では、千葉看護学会設立30年を記念し、理事会企画を実施することになった。これまでの学会の歩みを理解した上で、今後の学会活動について、参加者とともに考え探究する機会とすることを目的に、将来構想検討委員会を中心に理事会での検討を経て実施した。

2. 開催概要

登壇者、委員会メンバーを含めて、参加は53名であった。参加者に学会誌創刊号掲載の「創刊によせて」（初代理事長 野口美和子先生寄稿）を配布し、意見交換の際の参考資料としてもらった。最初に『学会設立からこれまでの歩みの共有』として、下記の先生方にご登壇いただきお話を伺った。印象深かった点をご紹介します。

1) 学会設立からこれまでの歩みの共有

佐藤禮子先生（名誉会員）には、学会設立にいたった経緯やご経験を伺った。設立時は千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程の1期生が修了する時期であり、博士論文を発信する学会への期待、実践を重視した看護学の発展に対する熱い思いを語られた。

中村伸枝先生（第1巻2号の投稿者、千葉大学名誉教授）からの話では、学会初期の学術集会時の分科会について、他の学会にはない研究者・実践者がともに同じテーマについて時間をかけてディスカッションできる機会として貴重だったことがとても印象的に残った。

その後の学会の歩みとして、元理事長として活躍された2名の先生からお話を伺った。

第7期理事長の酒井郁子先生からは、財政基盤の基礎となった会費値上げや理事会での学会のあり方検討、研究活動支援事業の原案づくりなどの実践活動を伺った。本学会が学会誌の掲載本数も多く査読もしっかりとした看護学の領域展開系学会であり、学術団体として目指すべき方向は、Engaged Scholarship社会協働関与型研究の推進ではないかという意見も伺った。個人的には、「実践と研究の境界を設けない、一緒に活動をしていく」という先生の言葉が印象深かった。

石橋みゆき先生（第8期理事長）からは、学会のロゴマークづくりのエピソードが紹介され、学術集会長をされた経験についても語られた。本学会の「実践と研究の往還」についてあらためて提示され、設立時の趣旨を忘れず、新たな取組の検証と継承が重要であると意見を伺った。

最後に、第10・11期の現理事長である増島麻里子先生から、法人化された学術団体としての社会的責任や、本学会のビジョンについて、あらためて説明された。

2) 今後の学会活動の探究

今後の学会活動について、参加者とともに考え探究する機会として、参加者が5グループに分かれて、【学会の課題や学会への期待】と【千葉看護学会の独自性、発展可能性】の観点で、今後の学会活動への意見交換を行った。また、グループは可能な限り、様々な世代・経験の方で構成し、まず各自が自由な意見やアイデアを付箋に書き、それをグループで共有しながら意見交換やさらなるアイデアを出し合う形ですすめた。出された意見を将来構想検討委員会メンバーがまとめ、最後に各グループで出された意見やアイデアを一部紹介し、全体で共有を行った。

【学会の課題や学会への期待】への意見では、会員数の伸び悩み、臨床実践家や若手（学部生、院生）の参加が少ない、千葉大学の関係者以外にも参加してほしい、論文や査読の質の高さが全国から見ても分かるようなアピール・発信の不足、学際的な取り組みや協働を創造・

促進する，革新的な研究や提言を発信できる，国際的に発信できる，学会発表以外でも議論が活発にできる・刺激し合える学会になってほしいなど多くの意見が出された。それをふまえて，今後の活動として，分科会の復活，語り合う機会を設ける（例：ラウンドテーブル），SIG（Significant interest group）の設置などのアイデアも出された。また，実践が反映できる新しい方法論など革

新的な研究や提言の発信，国際発信への意見も複数のグループから挙げられていた。

本学会は，「実践と研究の往還」の理念のもと，研究者・実践者の枠を超えて，そして領域を超えて集まれる場としての意義が非常に大きいことを実感し，本学会のよさをアピール・発信するとともに，これらの意見を反映させて今後，会員の皆様と将来構想を検討したい。